

鶏卵を巡る情勢

(1) 需給動向

- ① 昭和60年度の自給率は98%。近年は95～96%で推移。
- ② 23年度の生産量は東日本大震災の影響もあり、6年ぶりに250万トンを下回っている。

< 鶏卵需給の推移 >

(単位:千トン)

	60	2	7	12	17	20	21	22	23	24
需要量	2,198	2,470	2,659	2,656	2,631	2,646	2,605	2,619	2,633	2,629
生産量	2,160	2,420	2,549	2,535	2,481	2,535	2,505	2,506	2,495	2,507
輸入量	39	50	110	121	151	112	101	114	138	123

資料:農林水産省「食料需給表」

注: 1: 24年度は食肉鶏卵課試算。

2: 4年1月より輸入の殻付き卵換算係数を変更。輸入量は殻付き換算。

(2) 消費動向

- ① 年間一人当たりの消費量は、近年、概ね横ばいで推移。
- ② 家計消費の占める割合は、近年、概ね横ばいで推移。
- ③ 24年度における消費形態は、家計消費50.6%、業務・加工用49.4%。
- ④ 1人当たりの消費量は世界でも最高の水準。

< 一人1日当たり鶏卵消費量 >

(単位:g/日・人、%)

	60	2	7	12	17	20	21	22	23	24
家計消費量①	30.7	29.7	29.3	28.5	27.0	27.3	27.7	27.5	27.3	27.2
業務・加工用	16.2	22.2	25.8	26.2	26.5	26.8	25.7	25.8	26.3	26.6
総消費量②	46.9	51.9	55.1	54.7	53.5	54.1	53.4	53.3	53.6	53.8
①/②×100	65.5	57.2	53.2	52.1	50.5	50.5	51.9	51.6	50.9	50.6

資料:総務省「家計調査」、農林水産省「食料需給表」

注 1: 11年度以降の業務・加工用の数値は生産局推計。

注 2: 24年度は食肉鶏卵課試算。

(3) 供給動向

輸入量は、国内の鶏卵需要や価格の動向、為替レート等の影響を受けながら変動しているが、全需要量の5%程度で推移しており、そのほとんど(約9割)は加工原料用の粉卵が占めている。主な輸入相手国は、オランダ、アメリカ、イタリア等。

< 鶏卵生産量 >

(単位:千トン、%)

	60	2	7	17	20	21	22	23	24
生産量	2,160	2,420	2,549	2,481	2,535	2,505	2,506	2,495	2,507
前年度比	100.7	99.9	99.4	100.0	97.9	98.8	100.0	99.1	99.5

資料:農林水産省「食料需給表」

< ひなえ付け羽数の推移 >

(単位:百万羽、%)

	60	2	7	12	17	18	19	20	21	22	23
え付け羽数	119.6	109.8	105.6	110.6	109.2	108.4	105.9	102.4	102.5	101.8	99.4
前年度比	101.1	98.5	99.4	103.7	102.9	99.3	97.7	96.7	99.6	99.4	97.6

資料:S60~H21 農林水産省「鶏ひなふ化羽数調査」
H22~(社)日本種鶏卵協会「鶏ひな出荷羽数(全国推定値)」

< 鶏卵等輸入量(殻付き換算) >

(単位:千トン、%)

	60	2	7	12	17	20	21	22	23	24
輸入量	38.6	50.0	103.9	120.7	151.0	112.2	100.8	114.0	137.8	123.2
前年度比	132.2	111.6	105.4	101.4	112.4	99.0	89.9	113.1	120.9	89.4
輸入量 (殻付き卵)	0.4	1.7	2.0	2.1	14.0	2.4	0.7	0.9	4.8	1.7

資料:財務省「日本貿易統計」

注:殻付き換算

3年度まで 卵黄粉3倍、全卵粉4倍、液卵1.2倍、卵白1.275倍

4年度以降 卵黄粉2.2倍、卵黄液1倍、全卵粉4.4倍、全卵液1.1倍、卵白粉8.6倍、卵白液1.2倍

(4)経営状況

- ① 採卵鶏の飼養戸数は、小規模層を中心に毎年減少しており、25年2月1日現在の飼養戸数は2,650戸と前年比5.7%減少。
- ② 成鶏めす飼養羽数は、11年以降減少傾向で推移していたが、19年および20年は増加に転じたものの、21年以降は再び減少し25年は前年比1.8%減少の133.1百万羽。
- ③ 一戸当たりの飼養羽数は、一貫して増加しており25年は前年比4.1%増の52,000羽。
- ④ 25年における成鶏めす羽数規模10万羽以上層の飼養戸数は328戸(全体の13.5%)、飼養羽数は92百万羽(全体の68.8%)。

< 採卵鶏の飼養動向 >

		61	3	8	13	18	20	21	23	24	25
採卵鶏 飼養戸数	千戸	116.1	10.1	6.8	4.7	3.6	3.3	3.1	2.9	2.8	2.7
成鶏めす 飼養羽数	百万羽	129.6	139.3	145.5	139.2	136.9	142.5	139.9	137.4	135.5	133.1
一戸当たり 飼養羽数	千羽	1.1	13.8	21.4	29.5	37.9	43.2	45.0	46.9	48.2	50.2

資料:農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在)

注:種鶏のみの飼養者を除く。

3~9年は成鶏めす羽数300羽未満、10年以降は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く。

平成22年はセンサス年のため調査未実施。

(5) 価格動向

- ① 鶏卵に対する需要は概ね横ばいで推移しており、自給率は約95%であるため、国内生産量の変動が価格変動と直結している(1%の生産量の変動が5.5%の価格変動につながる)。
- ② 価格は、春から夏にかけて需給が低下するため下落し、8月中旬以降から12月にかけて需要が増加(鍋、おでん、クリスマスケーキ)するため、上昇する。
- ③ 卸売価格は、22年度は、前年度の低卵価を踏まえ、対策に基づき生産者が需要に応じた生産に取り組んだこと等から、前年度を大きく上回って推移。23年度は、東日本大震災の発生により一時的に供給が減少したことから上昇。その後、供給が回復したことから価格は概ね平年並みで推移。24年度は、年度当初から価格が軟調に推移したが、5月21日に成鶏更新・空舎延長事業が発動したことを受け、10月以降は前年を上回って推移。25年度は5月13日に標準取引価格(日毎)が安定基準価格を下回ったため、成鶏更新・空舎延長事業が発動中。

< 鶏卵価格の推移 >

(単位:円/kg、%)

	60	2	7	12	17	21	22	23	24	25 (4-5)
農家 販売価格 (前年度比)	267	224	174	171	176	168	188	182	177	170
	115.8	124.2	114.7	93	93.2	89.2	112.2	96.8	97.3	100.6
卸売価格 (前年度比)	279	241	197	185	186	175	193	188	181	168
	115.8	120.5	116.6	92.5	90.7	90.7	110.3	97.4	96.3	98.0
小売価格 (前年度比)	350	344	296	310	221	216	224	224	216	212
	150.4	119.4	106.9	98.4	100.9	95.2	103.7	100.0	96.4	99.5

資料:農林水産省「農業物価統計」、全農たまご東京M相場、総務省「小売物価統計」

注:小売価格は、14年7月よりMサイズ1kgからLサイズ10個に変更